

2011年12月1日

北海道知事

高橋はるみ 様

(社)北海道自然保護協会

会長 佐藤 謙

### 藤城川砂防堰堤計画の見なおしを求める要望書

北海道函館建設管理部は、七飯町藤城川に砂防堰堤を計画しています。この砂防堰堤計画は、川幅 5mに満たない藤城川において、遊砂地（最大幅 40m、長さ 200m）を造り、その遊砂地の上下に巨大な床固工（高さ 4m、幅 74m）を建設するというものです。私たちは、この砂防堰堤計画地域を調査した結果、砂防堰堤の必要性に疑問を持ち、さらに砂防堰堤を建設した場合の森林破壊とそれに伴う河川環境の悪化を強く懸念しております。そこで、貴職に対して以下の質問と提案を要望することとしました。要望書に対するご回答は、12月26日までに、北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel：011-251-5465、FAX：011-211-8465）宛に、文書によってご回答いただけますよう、宜しくお願ひいたします。

#### 1. 砂防堰堤の必要性についてご説明願います。

この砂防堰堤は、次の二つの冠水を防ぐために建設するとの説明を聞いております。すなわち、ア) 2007年7月に生じた、藤城川が国道5号線のボックスカルバート（藤城橋）を潜り抜け、すぐ左へほぼ直角に屈曲したところのビニールハウスの冠水と、イ) 2010年9月に藤城橋から250mほど上流で、藤城川支流へ南東から流入する支々流の屈曲部近くの「グリーンヒルズ上藤城」の住宅道路の冠水です。

しかし、この二つの冠水は、明らかに上述の川の屈曲に原因があり、上流の砂防ダム建設予定地に原因がないことは明らかだと考えます。この二つの冠水が再び生じないためには、屈曲部の変更と、必要であれば流下能力の増大で十分であると考えます。なぜ、冠水と無関係と考えられる場所に砂防ダムを計画したのか、ご説明をお願いします。

#### 2. 砂防堰堤が計画された河川流域において土砂流出を示唆するものは見当たらない。

砂防堰堤が計画された範囲およびその上流域は、傾斜も緩やかで、川石は苔むしており、近年土砂が流出している兆候は見当たりませんでした。なぜ、この場所に砂防堰堤計画を立てたのか、ご説明願います。

#### 3. 森林を破壊した上での砂防ダム計画は矛盾しないのでしょうか。

計画では、大規模な砂防ダム（遊砂地と床固工）建設のために、最低でも幅40m、長さ200m以上の面積の森林を伐採することとなっています。森林の重要な機能の一つに、土砂流出の防止があり、実際に土砂流出防備保安林が各地で設定されております。森林

伐採によって土砂流出が生じるため、砂防ダム・治山ダムが建設される例が少なくありません。森林を破壊した上での砂防ダム計画は矛盾すると考えられます。この点についてのお考えをお示しください。また森林を管理する北海道水産林務部のとの話し合いが行われているのか、ご説明願います。

#### 4. 砂防堰堤計画を中止して、藤城川の河川環境を整備すべきではないでしょうか。

藤城川の流域は、土砂流出が懸念される脆い地質で形成されておりません。また実際に観察した限りでは、砂防堰堤の必要性はありません。七飯町は豊かな地下水に恵まれています。残念ながら、私たちが見た藤城川の下流域は、自然な河川環境を失っています。魚などの生物が生息するには不十分な環境にあります。函館新道付近から下流域では三面張り護岸となっており、生物は生息できず、それに伴い川の自浄作用も著しく低下しています。さらに「グリーンヒルズ上藤城」住宅地のすぐ下流の下水処理場から、汚水が藤城川に流入しています。

藤城川の河川環境を自然の姿に回復させることが大切ではないでしょうか。三面張り護岸の人工的な川を生きた自然な川に変えて、子どもたちにとって川遊びができるようにすることが大切ではないでしょうか？ また藤城川が流入する久根別川にはサケの遡上が知られています。藤城川の河川環境が回復すれば、いろいろな魚も遡上してくる可能性があります。今回の砂防堰堤計画を凍結して、藤城川の環境調査や河川環境保全などの予算措置を検討するなど、七飯町の自然保護のために予算を使うべきではないでしょうか。このことについてのお考えをお聞かせください。